



産業廃棄物処理計画書

平成30年 6月29日

大分県知事

広瀬 勝貞 殿

提出者

住 所 福岡市中央区高砂2-24-23

氏 名 松山建設株式会社

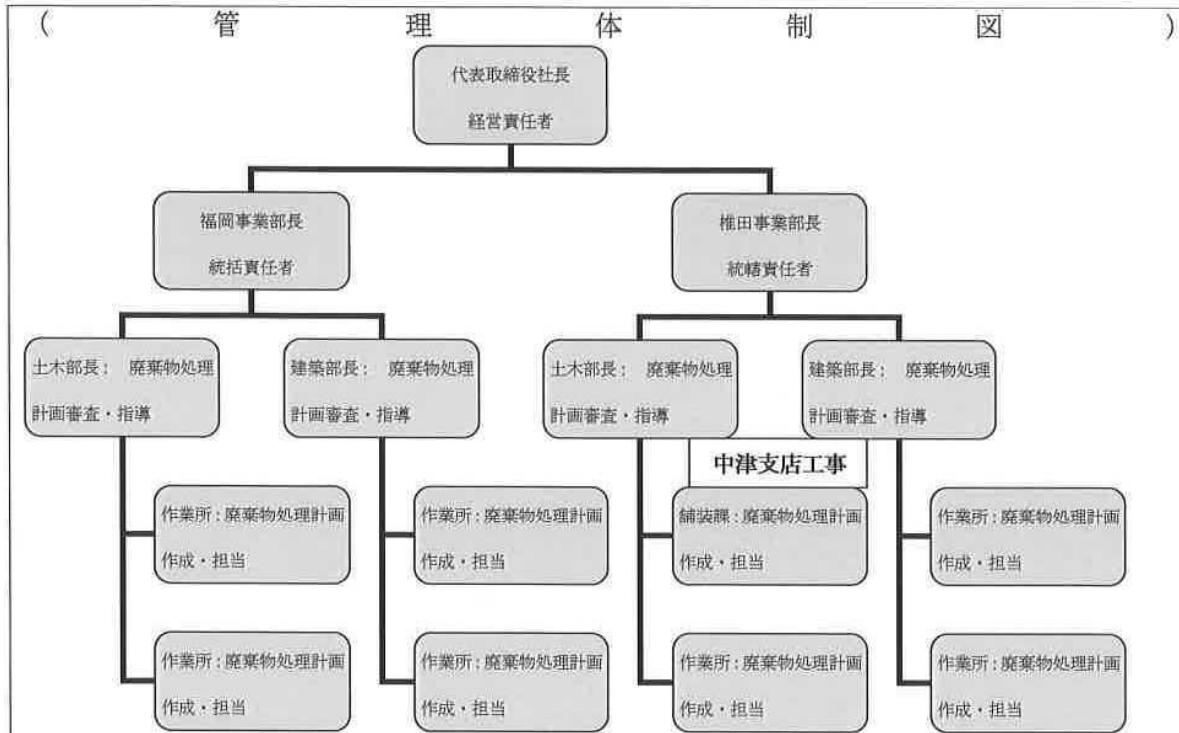
代表取締役 松山 孝義

電話番号 092-533-0001

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	松山建設株式会社 中津支店
事業場の所在地	中津市大字下池永708-1
計画期間	平成30年4月1日 ~ 平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 建設業・総合工事業
② 事業の規模	前年度全社 売上高 39.2億円
③ 従業員数	全体 69人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	かれき類 (アスファルト・コンクリートがら) 発生工事⇒中間処理等⇒利用工事 (再生合材・再生砕石・再生砂) 建設汚泥 発生工事⇒中間処理等⇒利用工事 (埋め戻し土・盛土材) 木くず等 発生工事⇒中間処理⇒再生材 ※ 収集運搬は、委託または自己運搬

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	排 出 量			
	(これまでに実施した取組) 工法を見直しや改善を行い、廃棄物の発生量を削減に取り組む。 (5S運動の精神)			
② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	排 出 量			
	(今後実施する予定の取組) 更なる工法の改善を実施し、余分な資材の搬入を防ぐことにより発生量を抑制する取り組み。梱包を少なくする。			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 重機・人力による分別を実施する。
③ 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物のコンテナ利用でも、品目分別を積極的に実施し、再生効率を高める。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量			
	(これまでに実施した取組) 現在、該当する活動はない。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量			
	(今後実施する予定の取組) 予定なし。			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量			
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量			
	(これまでに実施した取組) 実施していない。			
② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量			
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量			
	(今後実施する予定の取組) 該当する適用工事が無い。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量			
	(これまでに実施した取組) 実施していない。			
② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量			
	(今後実施する予定の取組) 特に予定していない。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	全処理委託量			
	優良認定処理業者への処理委託量			
	再生利用業者への処理委託量			
	認定熱回収業者への処理委託量			
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量			
	(これまでに実施した取組) 産廃処理業者の選定に際し、委託基準を遵守できる業者であることを確認し決定している。			

② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	全処理委託量			
	優良認定処理業者への 処理委託量			
	再生利用業者への 処理委託量			
	認定熱回収業者への 処理委託量			
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量			
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>優良認定処理業者を調査し、選定比較要素とする。 委託処理業者に対しては、現地処理状況の確認を現場単位で実施する。</p>			
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

